

植物ゲノム編集技術に関する国際シンポジウム

International Symposium on Plant Genome Engineering

わが国の食料自給率は約40%と先進国中で最低の水準であり、将来の安定した食料供給及び食料自給率の向上が喫緊の課題になっています。これらの解決のため、これまで蓄積した植物科学の研究成果を社会還元するとともに、社会学的側面からも有効活用することが求められています。

本シンポジウムでは新しい育種技術の一つとして注目が集まっているゲノム編集技術を用いた植物・作物の改良を行っている最先端の国内外研究者に御講演を頂く予定です。

日時

平成27年 **11月28日** (土) 13:00-18:00
(12:30 受付開始)

場所

筑波大学春日キャンパス
情報メディアユニオン

お申し込み不要・入場無料

講演者

※英語での発表ですので、予めご了承ください

- **Daniel Voytas**
(University of Minnesota)
- **Caixia Gao**
(Chinese Academy of Science)
- **Keiji Nishida**
(Kobe University)
- **Takahiro Nakamura**
(Kyushu University)
- **Ayako Nishizawa-Yokoi**
(The National Institute of Agrobiological Sciences)



主催：日本学術振興会 産学協力研究委員会 植物分子デザイン第178委員会
共催：SIP次世代農林水産業創造技術「新たな育種体系の確立」
筑波大学